

令和三年六月吉日初版作成

創造主の分身としての意識

高嶋善三郎

目次

- 潜在意識の本質・・・・・・・・・・・・・ 3
- 顕在意識は創造主の分身としての意識・・・・・・・・・・・・・ 3
- 己自身の波動を高める・・・・・・・・・・・・・ 5

当資料は、自著『すべての苦悩を天(光)に還元する(一部改訂)』(平成三十年四月吉日作成)と関連しています。

お願い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

例えば、この点について分かりにくいとか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構ですので、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

(スマホオ) 09033466619

(アドレス) zensan@peach.ocn.ne.jp

潜在意識の本質

神我一体観や自他一体観を得るには、潜在意識を浄めることが大切であると言われるますが、どのようにしたら、それを成し遂げられるのでしょうか。

潜在意識を浄めるには、まず潜在意識がどういうもので、私たちの日常生活にどのように影響を与えているかを知ることが重要です。

『神と人間』において、次のように示されています。
幽体に蓄積された記録や記憶が肉体の頭脳にキャッチされ、考えとなり行動となってゆく。この蓄積された記録や記憶を潜在意識といい、頭脳にキャッチされものを顕在意識という。

怒ろうとせぬのに怒ってしまい、不幸になろうとせぬのに、不幸になってしまう等々、すべて潜在意識（幽体、幽界）からの意識の流れによるのである。この波が常に展開し、不幸の念の蓄積は不幸を呼び、喜びの念の蓄積は喜びを呼ぶという風に、輪のように展開してゆくの、これが業の因縁、因果と呼ばれていると解説されています。

また、潜在意識のなかには、業の因縁の記録と記憶と共に遠い昔、元々輝かしい光明世界に住していた存在で、己自身

の高い波動を低い粗い波動に落として、感情を伴う肉体世界におりてきてこの肉体世界に大調和の世界を現わそうとしていた記録も記憶もあることを次のように言及されています。

分霊と分霊とが本来は神において一つの者であったことが幽体に記録され、記憶されているのが意識を超えて思われ、肉体においては、はっきり個々にわかれていながらも、お互いが、お互いを思い合う感情、愛は消えることはなかった。この愛の狭い範囲の働きは、親子、夫婦、兄弟の間に、ひろくは、人類、社会の範囲に及ぼされている。愛こそ神へのつながる道であり、光であり、本来の自己を見出すただ一つの感情、行為であった。

分霊は物質の世界、形の世界において、己れ自身の本来心、光（神）を忘れかけながらも、心の底から湧き上がってくる、人間本来一つの光の理念が、愛の思いとなり行為となって、わずかにその光を保っているのであった。

神の心を愛と呼び、業因の働きを執着と呼び、この二つの心が、人間の生活を、幸不幸とにわけていこうとしている。

顕在意識は創造主の分身としての意識

以上から、冒頭の質問に対する答えを整理しましょう。

潜在意識の中には、神の心（愛）と業因縁（執着）が玉石混交

の状態を記録、記憶されていると言われているのです。そして、善いことも悪いことも、自分の周囲の環境の影響を受けて、無意識のうちいろいろな感情を伴った運命の姿となって私たちの目の前に現われて来ています。

潜在意識を浄めるのは、顕在意識としてキャッチできたときがチャンスなのです。

特に、不幸の元である、業因縁をどのように浄めてゆくかは『人間と真実の生き方』に示されています。

「この世の中のすべての苦悩は、人間の過去世から現在にいたる誤てる想念が、その運命となって消えてゆく時に起こる姿である。いかなる苦悩といえど現われれば、必ず消えるものであるから・・・」という文言において業因縁について次元を超えた観方の重要性について言及されています。

では何故業因縁について次元を超えた観方が重要かをみてみましょう。

結論から言えば、トラウマなどの出来事の苦悩の記録と記憶は、決して消えませんが、変えることはできません。しかしその出来事をどのように観るかによって、苦悩から解放される事が出来ると言われているのです。

これを理解するためには、まず私たち人間の立ち位置を知る必要があります。遊園地にある迷路でいえば、迷路の中に

入ると、目先の道しかみえませんが、その施設の見晴台からみれば、どのような道順を行けば、脱出できるか分かるのと同じです。

私たち人間は、感情を伴った肉体世界という三次元の世界に存在しているということを思い出さなければなりません。

三次元の世界と高次元の世界とは、ものの観方が違います。

この観方の違いは、真理を理解すれば、自分の顕在意識の波動の高さによって変わって来ることを知るべきでしょう。

水に例えれば、わかりやすくなるかもしれません。

水は、温度がゼロ以下になりますと、氷になります。また温度が百度以上になると気体になります。水がこのように変容する要因は、温度の高さですが、次元によって観方が変わるの、顕在意識の波動の高さといえましょう。波動の低い世界では、肉体世界という枠で窮屈で即ち不安恐怖におのき、身動きができません、絶望的になります。光になるまで高めた波動の高い世界では、すべての把われから解放され、自由自在の身になり、楽しい気分さえあります。

トラウマ等の苦悩の記憶は、己自身の魂を磨くために守護の神霊によって現わされたもの、これで不幸を呼び業因縁は浄められ、今まで眠っていた神性を目覚めさせることができますのだと感謝し、前向きな気持ちになれるのは、波動の低い世界から波動の高い世界に脱出できた時に可能になるのです。

そう考えると、**顕在意識は、創造主の分身としての意識であり、愛をとるか、執着を取るかの選択の自由を与えられているとも言えます。**

執着の世界を選択すれば、執着の世界で苦しみの人生を歩み、心が休まることがない。一方愛の世界を選択すれば、愛の世界で喜びに満ちた人生を歩むことになるでしょう。

しかしどちらの世界を選ぶとしても、選んだ世界を具体的に創造するエネルギーは創造主の分身として与えられた生命のエネルギーなのです。即ち執着の世界を創るエネルギーも、業生のエネルギーではなく、すべて宇宙神から来ている、神聖なるエネルギーなのです。即ち執着の世界を不用意に選択していたとしても、真理に気づき、決意さえあれば、いつでも愛の世界を選択し直すことが出来ると言えます。

己自身の波動を高める

以上から、私たち神人が、顕在意識のなかで、常に愛の波動を目指し、それを感じ取り、高い波動の己自身を顕現することが、いかに大切なかを知らされます。毎日のご神事に取組み、組んでいる目的は、どのように**堕ちこんだ状態**にあっても、瞬時に高い波動の中に入るためであったと実感します。

では高い波動の中に入るにはどうしたらよいのでしょうか。

念力で高い波動を引き寄せるのでしょうか。否、実は私たち自身の内部に高い波動の世界が広がっているのです。

私たちの内部には神が存在し、内部の神が、外部の神々と交流しあっているのです。この内部の一番奥の神の姿を、直霊といい、その分かれとして存在しているのを分霊といい、直霊、分霊の働きを本心の働きといい、そしてこの直霊分霊の働きを真っ直ぐになさしめるために、外面的に働いているのが、守護神なのであり、守護霊なのであると言われています。（『続宗教問答』問90）

この神本来の本心の世界は、愛深き心、美しく清らかな心、真をつくす心、善事をなす心等々、すべて人間生活を高め、深める心のひびきの世界、即ち神性の世界なのです。（同書問93）私たちの内部にある本心は、私たちの身体の部位で言えば、心臓の裏側にあるハートにあり、頭頂の松果体と臍下丹田と連携、一体となって存在していると言われています。

そして大生命の根源（宇宙神）から生命のエッセンスである宇宙子がチャクラを通じて直接本心に流れてきているのです。呼吸法等によりそれを意識的に受け入れ、ハート等を活性化すると、安らぎと幸せの心を感じ、そこから高いエネルギーの波動が発せられていることに気がきます。その波動を感じ取っていくことをひたすら続けると、その波動は次第に強くなり、己自身の波動圏は高く広がっていくのを実感します。

神との一体観は、内なる神との交流から始まるのです。